

BUILDERS CHOICE

PRESENTED BY HBJ

IT WAS CHOSEN BY THE FOLLOWING 38 SHOPS.

- ASK MOTORCYCLES
- A-SYKS MOTOR WORKS
- BAD LAND
- BRAT STYLE
- CHEETAH CUSTOM CYCLES
- CHERRY'S COMPANY
- CORE CREW
- CUSTOM WORKS ZON
- 大神戸共楽園
- DUAS CARAS CYCLES
- GREEN MOTORCYCLES
- HAMANS CHOP SHOP
- HAMMER SYCLE
- HEIWA MOTORCYCLE
- HIDE MOTORCYCLE
- HOTCHOP SPEED SHOP
- HOTDOCK CUSTOM CYCLES
- HWZNBROSS
- INDIAN ORANGE MOTORCYCLE
- JETJAM
- JUCKSON'S
- KENS FACTORY
- KURUMAZAKASHITA
- LONGER SAGE CUSTOM CYCLES
- RTB MOTORCYCLE
- SHOP SAM'S
- SELECTED CUSTOM MOTORCYCLES
- SHAKIN' CUSTOMIZED
- SHIUN CRAFT WORKS
- STOOP MOTORCYCLES
- SUNRISE CYCLES
- SURE SHOT
- SWALLOW TAIL
- THE KINGS PERFORMANCE
- TRIJYA CUSTOM MOTORCYCLES
- TOKYO INDIANS
- V MONSTER
- WHEELIES

前 車の魅力、プロフェッショナルな改装技術の真実を知る。その中心にあり、あるビルダーとビルダーの対峙が描かれる。

「プロフェッショナルビルダーとビルダーの対峙が描かれる。」「うん、そっかだね」「主催者が選ぶアワードや海外ビルダーの個人的なビークはあるけど、やっぱりビルダーズチョイスで、すてっ価値があると思うんだよね」

確かに。カスタムバイクの何たるかをもっともよく知るの他でもないビルダー自身。そんな彼らが何を選ぶかは大いに興味を引くところだ。その瞬間「そっか」と思っていた。編集部で独自にビルダーたちにバイクを選んでもらって、それを集計してみたところどうだろう？

「それ、すごく良い。ぜひやろうよ」
 そうしてショー前日の搬入日、会場で見かけたビルダーたちからうざりばしから声をかけた。

「今回ビルダーズチョイスを編集部で集計してみました。選んでくれた？」
 選ぶ車両は3台、それを1位2位3位の順位をつけて、1位が3ポイント、2位2ポイント、3位1ポイント。対象はハーレーに限らず会場内のすべての車両。そんな説明をすると、声をかけたビルダーは全員「おもしろいね」と賛同してくれた。と同時に「でも、難しいなあ」と頭を抱えるビルダーも多かった。そりゃあそうだ、これだけのバイクの中から3台を選ぶのは至難の業。そうしてみんな、かなり悩みながら真剣に選んでくれたのだ。初めはどのショップが何を選んだかを公開しようと考えていたが、そうすると選び難いという声も多くあり、集計した上位車両だけを発表することにした。

声をかけることができたショップは右に挙げた38件、名前が挙がった車両は32台。栄えあるビルダーズチョイスは14ポイントを獲得したシニアショット、次点は13ポイントの同点でデモとスロウロイテイル、以上がベストスリー。次いで9ポイントのチェリーズ、8ポイントがホットドック(ネイバーフッドのブースに展示されたカフェレーサー)、チーター、平和の3ショップという結果となった。

開場を埋め尽くしたすべてのバイクはビルダーが手塩にかけた渾身の作。優秀などというだけでなく、プロフェッショナルの作り手が個人的な好みで選んだバイクという意味で興味深い企画だと思うのだが、大いに頭を悩ませたビルダー諸君に感謝します。



Presented by HBJ
BUILDERS CHOICE
1

SURESHOT
 SHOW TIME!
 HOT ROD CUSTOM SHOW
 HE IMPRESSION SPL.



シュアショット
千葉県八街市八街へ 199-1123
phone_043-312-0900
http://sureshot.jp/



直訳すれば、確実な射撃、腕の良い射手。シュアショットが仕み出すバイクは、そのシロフ名が象徴しているように思う。奇をてらわないスタイリング。純正のリジッドフレームにV-Lフォークという王道の骨格を使いながらも、チヨッパやホバーといった、アメリカンスタイルのカスタムではない、一台のオートバイとしての美しさがそこにある。

りまで幅を詰めたV-Lスプリングと、それ合わせるようにヘッドからエンジン下へと延びる2本のダウンチューブを平行にナロード。シングルダウンチューブは一般的なが、これはここまで目にしたことがないアイデアだ。

相川拓也は「思いついたのはよかったんですけど、いざ作り始めたところのシルエツトを左右対称に合わせるのがものすごく大変でした」と笑う。

イブの長さが違うとセッティングで同調を取りづらい」という相川の走りに対するこだわりが見える。



HOT ROD CUSTOM SHOW